

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒一人一人が持つ可能性を引き出し、個性を最大限に伸ばす指導に努める。 (2) 社会人として必要な基礎・基本を身に付けさせ、自立した人間を育てる指導に努める。	
2 評価する領域・分野	◇教務	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	8割以上の生徒が授業の形態や指導方法、評価について肯定的に評価している。しかし個に応じた指導、支援という面ではやや低い結果となっている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒の実態にあった分割授業・TT等（実験実習を含む）による少人数指導の効果的運用について検証する。 ・授業研究週間に生徒による授業評価を行い、生徒の現状に即したより効果的な授業が行えるよう取り組む。 ・授業評価についての方法について協議し、生徒に対して公平な評価方法を研究する ・生徒が自ら授業の規律やマナーを心掛けられるように指導する。（重点目標の活用） ・生徒の基礎学力定着のため、自主学習を促す取り組みを各教科と学科間で協力して研究する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	「教育課程・学習指導」、「情報」、「図書」の体制とし、各責任担当者を定め、全職員の共通理解のもと取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業研究週間 (2) 地域課題を教材とした学習 (3) ICT機器の活用促進と適正な管理	(1) 研究授業、公開授業の実施 (2) 課題研究の授業及び発表会 (3) 機器の利用状況、授業評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・授業研究週間は、年2回実施した。全クラスで公開授業を行い、生徒による授業評価・自己評価を実施した。授業評価はFormsを使用し、Webアンケートとした。 ・学習評価方法について情報を収集し、生徒に対して公平な評価方法を検証、研究する ・生徒の基礎学力定着のため、自主学習を促す取り組みを各教科と学科間で協力して研究する。	①研究授業、公開授業に多くの先生が参加し、評価アンケートから授業改善を図れたか。 ②評価方法について情報を収集したが、内容についての検証まで至らなかった ③基礎学力定着への取り組みは組織的に取り組むことができなかった	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A B <input checked="" type="radio"/> C D
1 成果課題	○研究授業・公開授業により教員の実践交流ができた。またICT活用研修や初任者研修等も活用し、多くの先生が自主的に授業力向上へ向けて取り組んだ ○校外での活動が制限された中、感染対策等工夫をしつつ、地域から必要とされる学校として評価が改めてわかった。 ○タブレットの導入、ICT機器の充実で多くの授業で活用できた。また、活用する中で工夫が見られ、教員間での情報交換も多くみられた。 ○月間重点目標を定めることで、全体としての共通目標を持つことができた ・○図書館だよりやPOPなどで情報発信をし、図書館利用の向上に努めることができた ●基礎学力の低下が見られたり、学習意欲をなくす生徒がみられた。そのような生徒への対応が不足していた ●ICT機器が充実し、活用が増えたが、機器の破損が発生し、手続等に時間を取られた。	
	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D	

12 来年度に向けての改善方策案

- (1) 専門科目と普通科目が生徒の学びの中で教科横断的な指導方法を検討していく。
- (2) 基礎学力の定着へ向けて、プロジェクトを組んで対応し、進路実現に向けて身につけるべき力を理解した上で学習に取り組むことができるようにする。
- (3) ICT機器の効果的な活用と機器管理について組織的に動けるよう検討を重ねる。
- (4) 学習指導要領の改訂、学習評価方法の改訂に伴い、教員間で協議し、研修会を実施し、より良い学習、より公平な学習評価について検討し続ける。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月20日

- ・ 課題研究発表会に参加させていただいて、課題設定が明確であり、計画から実施、評価がきちんと出来ていることが分かった。専門性を手を動かして学んでいることが恵那農高の学びの特色である。発表のための資料作り、発表の練習など、きちんと指導が入っていることがよく伝わってくる発表会だった。このような学習方法は「自分が何を学んできたかを口にする」手法で、学力が高まるだろう。
- ・ 課題研究発表会の発表で生徒が課題研究を通じてPDCAサイクルの考え方や、チームとしてのリーダーシップやフォロアシップを学ぶことで社会人基礎力を高めていると感心した。恵那農高がこれからも地域農業と連携して共に進まれることを期待している。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那農業高等学校 学校番号 51

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒一人一人が持つ可能性を引き出し、個性を最大限に伸ばす指導に努める。 (2) 社会人として必要な基礎・基本を身に付けさせ、自立した人間を育てる指導に努める。	
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒は授業や実習、部活動にまじめに取り組み、落ち着いた学校生活を送ることができている。生徒・保護者アンケートから、生徒指導の取り組みはおおむね理解されている。ただし、いじめの対応や個別の対応が不十分な面がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	①積極的な教育相談を実施し、生徒の状況把握に努める ②豊かな人間関係の構築を図り、いじめの未然防止・早期対応に努める。 ③あいさつや身だしなみ、遅刻等の基本的な生活態度の定着を図り、正しい規範意識を育成する	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	各学科、各学年会、各分掌と共通理解のもと、連携して取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 教育相談の充実と生徒の情報共有、組織での対応 (2) SSTの実施、LHRの活用、迷惑調査 (3) あいさつ・身だしなみ、遅刻指導の徹底、問題行動の未然防止	(1) 情報共有ができたか (2) LHR活動の内容、迷惑調査の結果 (3) 遅刻欠席回数、カード指導回数、問題行動調査の結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①教育相談係会、職員会議での生徒情報交換、S C、Σ検査、QU、教育相談旬間、気付きシートの記入 ②外部講師によるソーシャルスキルトレーニング、統一人権教育、迷惑調査 ③身だしなみ・挨拶指導、月1回の身だしなみ点検、カード指導(身だしなみ)	①組織的に取り組めたか。 ②計画的に取り組めたか。 ③弾力性、柔軟性をもって、効率的に取り組めたか。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果課題	○全学年ともにQU検査を実施し、外部講師による結果の分析を行ったことにより生徒理解が深まった。 ●気付きシートの記入が徹底できなかった。 ○1年生に対してクラスごとにSSTを実施することができた。全体で実施するよりもより内容の濃いものになった。 ●各クラスのLHRの内容について、働きかけができなかった。 ○いじめの認知件数が昨年度よりも減少していることから、未然防止・早期対応ができた。 ○身だしなみに対する生徒の意識が向上し、指導される生徒が減少した。 ●同じ生徒が複数回遅刻することがあり、その指導が徹底できなかった。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・気付きシートの記入徹底と、生徒情報の円滑な共有。 ・長期欠席者や不登校傾向の生徒への早期対応と個別指導の充実。 ・全職員の共通理解、共通認識と、組織としてすべての指導・支援にあたる意識の向上。 ・身だしなみ点検の実施方法を学科・群から学年へと移行するための明確な基準の作成。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月20日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>新型コロナウイルスの影響で「欠席・早退に対するハードルが低くなっている」という報告があったが、大学でも同様である。授業だけでなく、生徒会、部活動などの課外活動でも何でもよいので、自分は高校時代にこれを頑張ったという自己肯定感を持って次のステージに進める指導を期待する。</p>
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒一人一人が持つ可能性を引き出し、個性を最大限に伸ばす指導に努める。 (2) 社会人として必要な基礎・基本を身に付けさせ、自立した人間を育てる指導に努める。	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	個人の希望に沿った具体的な進路指導に関しては、生徒・保護者の理解と評価は得られている。適切な情報提供と適性に合った進路指導に関しては、更なる工夫と改善が必要と考える。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	①体験的な学習を通して、正しい勤労観や職業観の育成を図る。 ②コミュニケーション能力の育成、特に自発的な挨拶を指導する。 ③地元企業を中心に、また学科の専門性を活かすことができる求人獲得を行う。 ④進学希望者（特に四大・看護医療系）と公務員希望者に対する指導の充実を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	進路指導部と各学年、各学科・群、各分掌との連携を密にする。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 体験的な学習（企業訪問・インターシップ等） (2) コミュニケーション能力の育成 (3) 求人開拓 (4) 進学希望者への個別指導	(1) 事前・事後指導の充実 (2) 学校活動への取り組み姿勢と面接指導 (3) 企業訪問の実施と企業との密な情報交換 (4) 個々の希望に添った継続的な進学指導	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生は企業見学と進路がイッスを年1回実施した。事前・事後指導を実施することにより継続的なキャリアの醸成に努めた。 全職員体制での面接指導、国語科を中心とした個々への作文・小論文指導を実施した。 看護・公務員希望者への外部講師講話や補習、大学進学希望者への説明会を実施した。 	①十分な比較検討をして進路決定ができるか。 ②面接や作文・小論文において十分な自己表現ができるか。 ③進学に向けて粘り強く取り組み、進路実現をすることができるか。 ④生徒や保護者に必要な情報を適宜提供することができるか。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は求人数や指定校の充実のおかげもあり、ほとんどの生徒が希望に沿った進路を決定することができた。 ○コロナ禍の活動制限が緩和し、企業見学や進路がイッス、インターシップなど体験的な学習を予定通り実施することができ、キャリア育成につながった。 ○9月上旬の面接強化旬間を中心に、全職員の協力により個に応じた面接指導を実施することができ、進路実現につながった。 ○1, 2年に向けてWeb保護者説明会や校内企業説明会、外部講師による看護・公務員講話を実施して情報提供の機会をつくった。 ●国語科の協力によりきめ細やかな作文・小論文指導を実施できたが、今後は全職員で対応できる体制を作る必要がある。 ●一般常識の定着や基礎学力の向上のために、ドリル活用などの具体策を学年や教務などと連携して示していきたい。 ●難関大学向けの進学補習や小論文指導は継続した粘り強い指導が必要であり、早期からの進学指導の必要がある。 	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> (1) 十分な比較検討をして進路決定ができるよう、3年間を見通した学年ごとの進路指導目標を周知して、その目標に沿った具体的な取り組みを企画立案する。 (2) 各学年、学科・群、分掌との連携を密にし、あらゆる学校活動を通して勤労観や職業観の育成と基礎学力の向上を図る。 (3) 大学進学希望者への早期指導を行い、難関校にチャレンジする意欲を持たせることも視野に入れていく。特に小論文指導を全職員体制で実施できるようにする。 (4) 公平な進路指導になるように、進路指導委員会や学年会を活用して情報の周知をはかる。 		

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月20日

【意見・要望・評価等】

- ・社会との関わりで「なりたい自分」と「自分に出来ること」を学年に応じた目標と具体の支援の成果として、共有することが大切であると思う。進路に関わる情報をしっかり収集した支援により、進路状況から卒業生があらゆる分野で活躍していると思う。2年生など早い時期から就職先・進学先の具体的情報に接する点がよいと思う。
- ・インターンシップなど、実際に働くことの喜びや大変さを体験することが大切である限られた教職員数で大変だが多様な生徒の希望に応えてほしいと思う。
- ・職業教育とともに自己理解力や自己管理能力を高めるキャリア教育に取り組むとよりよい教育になる。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那農業高等学校

学校番号 51

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒一人ひとりが持つ可能性を引き出し、個性を最大限に伸ばす指導に努める。 (2) 社会人として必要な基礎・基本を身に付けさせ、自立した人間を育てる指導に努める。
2 評価する領域・分野	◇特別活動部
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	保護者アンケート結果（よく当てはまる・ややあてはまる）全校平均 ・本校では、部活動が適切な管理体制のもとに適切に行われている。 70%（昨年80%） ・学校は、ボランティア活動の大切さを教え、その機会を提供している。 59%（昨年63%）
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 生徒会活動・生徒会行事の指導を通して、生徒の自主的、実践的な活動能力を高める。 2 学校生活の中で、自己肯定感や自己有用感が持てるように援助し、本校生徒としての自覚を持たせる。 3 地域交流や地域ボランティア活動を通して、地域の人々から愛され地域に貢献できる生徒を育てる。 4 生徒と共に活動する中で、部活動の活性化を図り、健康な心身と協調性を養う。
5 目標の達成に必要な具体的な取組	① 生徒会行事、委員会活動 ② 部活動、ホームルーム活動、ボランティア活動 ③ 記録・広報
6 取組状況・実践内容等	7 評価
(1) 生徒会行事 : 生徒総会、生徒会役員選挙、文化祭、球技大会、芸術鑑賞会、農高祭、離任式（予定）	B
(2) 委員会活動 : 正副学級委員会、文化委員会、体育委員会、保健委員会、美化委員会、図書委員会、放送委員会、福祉委員会	B
(3) 部活動 : 新入生部活動紹介、部登録、部顧問会議、部長会議、部活動予算、部活動指導計画と実施報告、部室点検、試合等の結果の広報化	A
(4) L H R : 年間LHR計画	B
(5) ボランティア活動 : MSリーダーズ活動、街頭交通安全呼びかけ 恵那市青少年育成市民会議等との連携、地域啓発活動	B
(6) 広報・記録 : 行事・様々な活動の記録、行事フォト速報の作成と掲示、生徒会通信、生徒会・農業クラブ機関誌「あゆみ 青樹が丘」	A
(7) 生徒会会計 : 予算、執行、決算、卒業記念品	A
7 成果課題	総合評価 B
<p>○（アンケート結果から）保護者の本校の部活動に対する評価は概ね高いと言える。 ○学校行事の写真をタイムリーに掲示することができた。 ●依然としてコロナ禍のため、ボランティア活動（外部）の機会はかなり制限された。</p> <p>今年度は感染対策を講じながら文化祭や球技大会などの生徒会行事を開催した。特に文化祭は2年間開催されず、どの学年も初めてで手探り状態であったが、クラスメートと力を合わせて一つのを立派に創り上げ、発表することができた。</p> <p>生徒会執行部の日常的な活動としては、今年もあいさつ運動や目安箱の設置などに取り組んだ。校則の見直しは、前期から後期へと引き継がれ、靴下の色の追加につなげることができた。今後も全校生徒の率直な意見を寄せてもらうために目安箱を活用していくつもりだが、寄せられた意見をいかに検討し、学校生活に反映させていくかが課題となる。</p> <p>部活動は、徐々に以前の練習環境を取り戻し、成果を上げることもできた。ただ、依然としてコロナ禍であるため、感染対策に留意しながら活動計画を立てる必要がある。</p>	
8 来年度に向けての改善方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 いかに目的意識を持たせ、意欲的な活動を促すか。 ・生徒会活動の活性化 いかに生徒が主体的に考え、活動する力を高めていけるか。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月20日

【意見・要望・評価等】
・恵那農業高校が地域に根ざした活動を行っていることを市民の皆さんが知っている。このような活動で、社会性やコミュニケーション能力の育成が図られる。生徒の主体性や、創意工夫を育む恵那農業高校の特徴を生かした教育を今後も期待する。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那農業高等学校

学校番号 51

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒一人一人が持つ可能性を引き出し、個性を最大限に伸ばす指導に努める。 (2) 社会人として必要な基礎・基本を身に付けさせ、自立した人間を育てる指導に努める。
2 評価する領域・分野	◇ 農場部
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校改編に向けた農場整備 ・農場が経営と実験の農地に区分整備させていない。 ・開かれた学校づくりで来校者も増えるので見学しやすい農場が必要。 ・専門学習の充実と農業クラブ各種競技活動の強化。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①開かれた学校づくり ②農業クラブ各競技の指導 ③新学習指導要領に対応した授業改善 ④安全教育 ⑤学科群に対応した、特色ある教育内容、設備の充実
5 目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ①ふるさと教育のさらなる推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学校間や地域社会、産業界との連携し地域課題の発見・解決する学びの推進。 ・地域への貢献の精選、生徒のための地域連携。 ・地域、中学生へのPR活動 農高祭の実施。 ②農業クラブ活動における指導の工夫と改善 <ul style="list-style-type: none"> ・基準改定に合わせたプロジェクト学習、農業鑑定、意見発表などの農業クラブ活動における指導の工夫と改善 ③新学習指導要領に向けた授業の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応したプロジェクト学習や実験実習内容の検討 ・授業におけるプロジェクト学習法の導入 ・経営ほ場と実験ほ場の区分の整理と明確化と表示。 ④安全教育 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>安全マニュアルに基づいた安全教育</u>。各科会議での確認 ・安全装備の整備 ・施設点検の遂行（毎月点検実施）。農場部による定期的な圃場整備 ・農機表示の工夫 ・車両・機械などの整備の遂行（毎月の点検実施） ⑤学科群に対応した、特色ある教育内容、設備の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学科群としての特色ある教育活動の構築 圃場再編 ・既存施設有効の活用と新規設備の要求の検討
6 取組状況・実践内容等	7 評価
①-恵那市農政課との連携強化、農高祭の実施。 恵那たべとるマルシェ参加、スマート農業連携	B
②-意見発表会において全国大会に出場することができた。各種発表会に参加する。 花きコンペティションなど	A
③-経営ほ場と実験ほ場の区分の整理と明確化がまだできていない。	B
④-安全点検は実施できたが、コストの増加により農場運営が難しくなり安全設備の導入までできなかった。	B
⑤-学科群に対応した圃場再編をすることができなかった。	B
8 成果・課題 ○関係機関と連携し、生徒の学びの向上に繋がった。 ○農業クラブ活動では、意見発表全国大会に出場。 ●安全装備の整備不足 ●農場の改善が具体的にできなかった。	総合評価 B

9 来年度に向けての改善方策案

- (1) 新学習指導要領や学校再編に沿った農場の改善を行う。具体的な作目の選定と栽培計画の検討。
さらに、生産ほ場と実験ほ場の区別や表示の整備を行う。
- (2) 地域との連携のさらなる精選し、生徒の学びにつながる連携を行う。
- (3) さらに学科間の連携を行い、無理のない農場運営を行う。農場運営における安全装置の整備

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月20日

【意見・要望・評価等】

- ・専門的な技術を学べる学校で、実習の充実と関係資格取得、また地域とのつながりがよいと思う。とくに群れの導入、学科改編の効果がどのようになるか期待している。
- ・直売所「彩広場」へ直接足を運ぶことを楽しみにしている方が、学校の対応がとても親切だと喜んでくださっている。地元の観光資源を盛り立てていく活動で「花で大井姫宿らしい華やかな雰囲気を作りたい」と相談したところ寄せ植えの展示で参画していただいた。具体的な活動のある学習は、社会人になるための自信になる。
- ・専門高校だからこそ出来る経験、体験学習等の機会をさらに充実させてほしい。また、学習の様子を中学生に伝え、魅力的な学校であることが伝わるとよい。